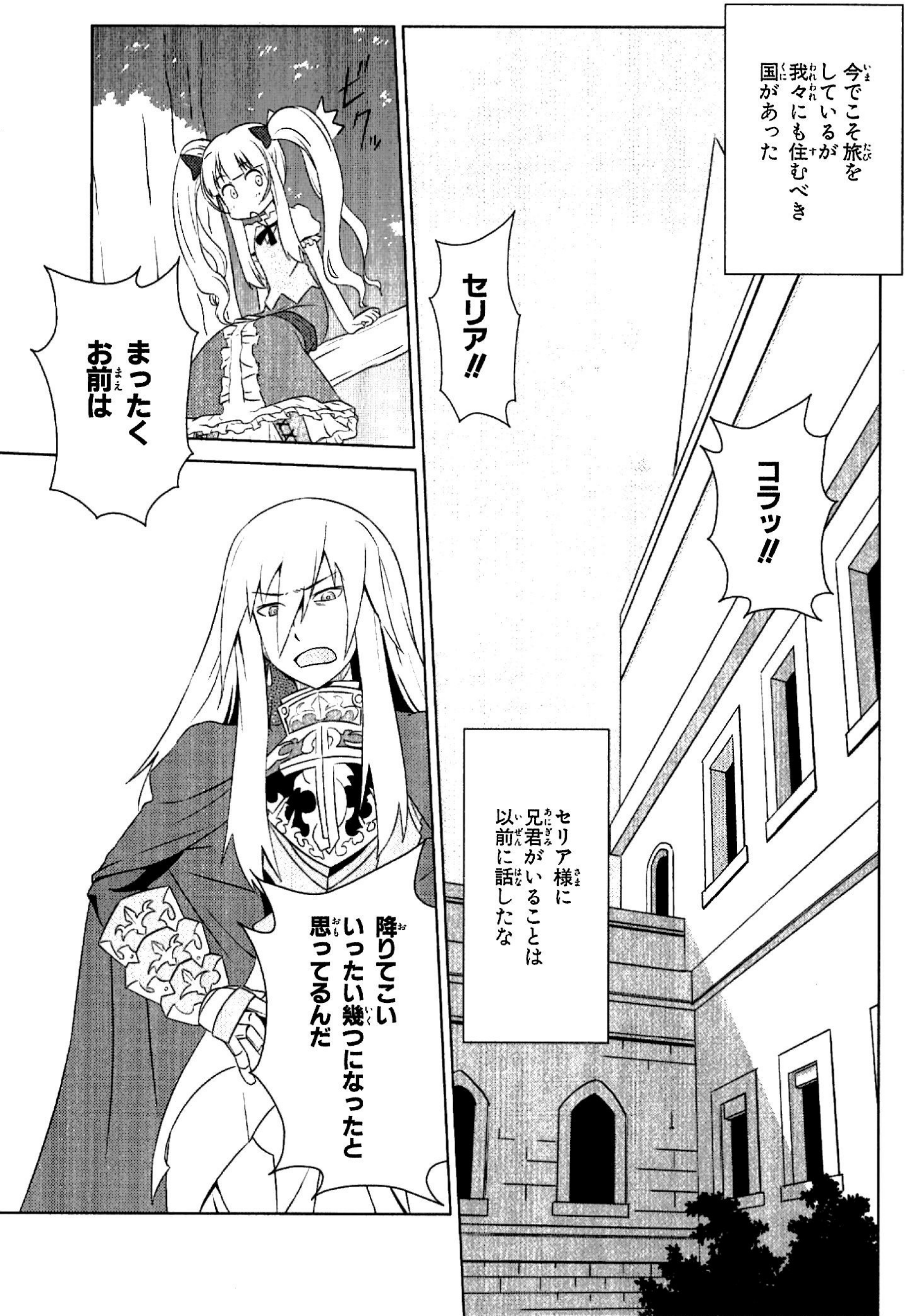

パァァァァァァ
第5話
う・・・
・・・んっ・・・
おい
フウカ
お前は
うすうす気づいて
るんだろ
あそこに
誰がいたか

第5話

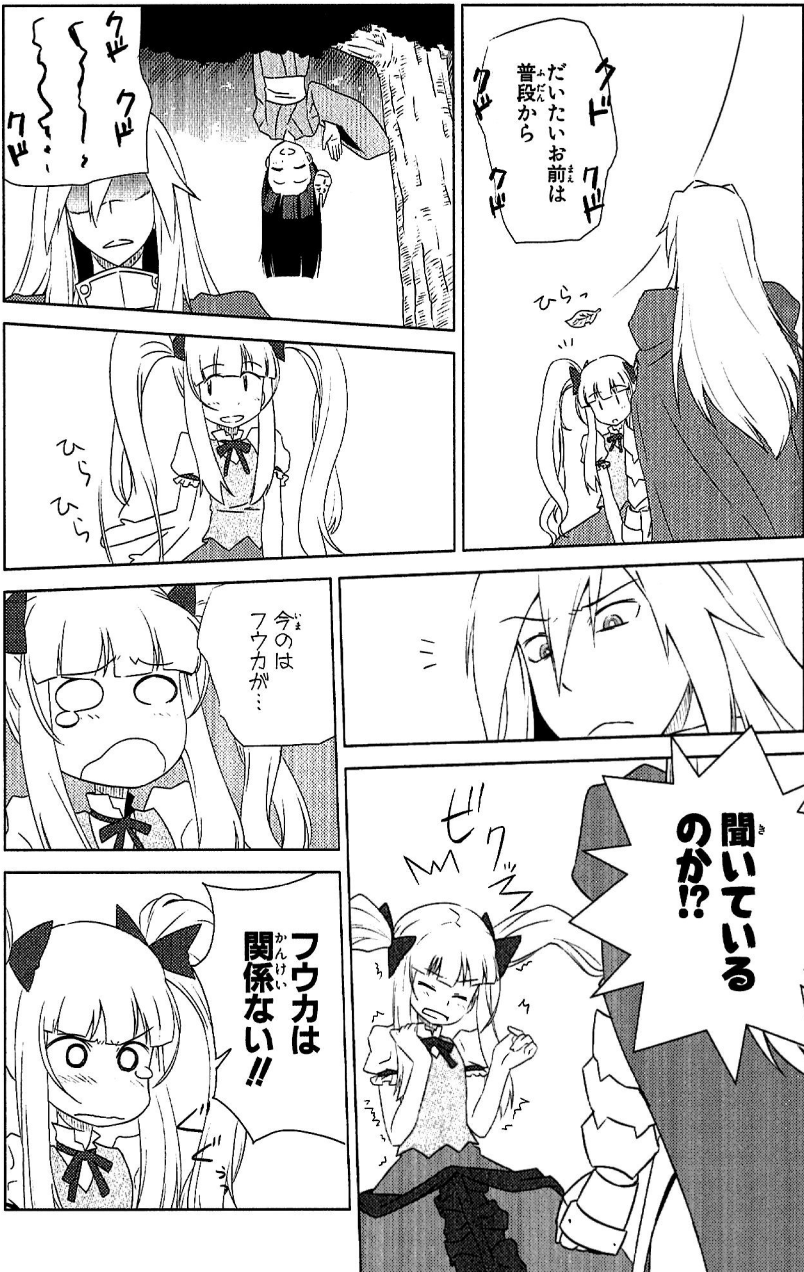



あんなバケモンをセリア一人で倒せるわけがない
加えてあいつの取り乱しよう
あそこにはアイツの追ってる仇ってのがいたんじゃねぇのか？
・・・
……
アイツの過去に何があったんだ!!



今でこそ旅をしているが我々にも住むべき国があった
コラッ!!
セリア!!
ビクッ
まったくお前は
セリア様に兄君がいることは以前に話したな
降りてこいいったい幾つになったと思ってるんだ


この兄君がセリア様に対して厳しくてな何かにつけ叱っていた
お前はそれでも一国の姫か
葉っぱを払え
母がいないからと大目に見てきたが
いつまでもそれではいかんと思えばこそ…
溜め息をつくな


だいたいお前は普段から
クド クド クド クド
ひらっ
クド クド～～～～～…クド
ひら ひら
今のはフウカが…
聞いているのか!?
ビクッ
フウカは関係ない!!



もうよいではないですか
兄上はいつも怒ってばかりだ
な……
セリア お前は…
いくぞ フウカ
おいっ
まだ 話は終わって…



おお
セリア様
だが城の他の者たちは
姫様に優しかった


ハハハ さてはまた 兄上の説教から 逃げてまいりましたな
ああ 兄上の説教は 長くて かなわん
これでは エリック様も 大変だ
……
兄上は
兄上はきっと 私のことが 嫌いなのだ


何をおっしゃいますか
エリック様…兄上様もセリア様を思ってのこと
私には
そうは思えん…
セリア様
だが



ゆえに
セリア様も
お幸せそうに
過ごされていた
フワァ
私は
フウカも
みんなもいるから
へいきなのだ
そんなこと
より…
ドドン


今日も
壮健そうで
何よりだな
セリア
?
これは失礼を
セリア様
こちらに…
ハハハっ
よいよい
セリア
はしたないぞ
ビクッ
いけません
父上
よいではないか
エリック


フウカもおったか
残念だが今から会議でな
フウカと向こうで遊んできなさい
では部屋で遊ぼう フウカ
そんな生活が終わる日は不意にやってきた


隣国からの侵略
セリアさま
どうだったフウカ
それが
お父君も兄君さまも戦線にはおらぬ様子
そうか城内にいるのだろうか


フウカ
父上が心配だ
謁見の間へ
行ってみよう
ハッ
カッ
城下からは
恐ろしい怒号が
響いてきていたが
オオオオオ
それとは裏腹に
城内は静かで
逆にそれが
恐ろしかった


ハーーー
ハーーー
セリア様
なんだ？
静か過ぎませんか？
こんな最中に軍議などしてるわけでもないだろうし…
早く入るぞ
ギィッ


ギイイイイイイイ
父上？
セリア様あちらを…!!
兄上？
兄上!!
父上は他の者たちはどうしたのです？
私にはいったい何が起きているのか…
かくん


そこでセリア様は見たのだ
ぬるっ
!!
無数に転がる大臣や従者の死体
これは
兄上!!
フウカ いったい これは!?
なぜ みんな……
そして
いったい何があったのです!?


実の父君を
斬り捨てた兄君の姿を


ざわっ
あにうえええええええっっ!!
姫!?
ギャッ


くっ
敵兵がこんな所まで
姫!!
いったん引きましょう
しかし!!
だっ
今は引いて機をうかがうのです
ばっ
フイッ


オオオオオ
ザザザザ
領土から逃れた私たちは
城が焼け落ちて行くさまを呆然と眺めるしかなかった


時が経ち
国に戻った私たちが
見たものは
ただただ広がる
荒野だけ
そして
数少ない
生き残りに会い
セリア様の兄君の
向かった先が
アーモロード
なのではないかという
話を聞いたんだ


……
喋ったのか
フウカ
お前…
セリア様
お身体はもう…？
心配を
かけたな



といっても
まだ安静が
必要だけどね
よし
よし
んんっ
まあ
無事で何より
だがよ
!!
がばっ
セリア様
スミマセン
私は…
構わん
もっと早くに私の
口から言っておく
べきだったのだ



すべてはフウカが話したとおりだ
スマン
セリア様そのような…
ふざけるんじゃねぇ
ったく無理矢理仲間に引き込んでおいて
そんな大事なことを黙ってやがったなんてムカつくぜ
貴様っ
あんまりムカつくからよ…


このムカつきはくそったれな兄貴をぶっ飛ばして
晴らすとしようぜ
フフフそいつは名案だね♪
ビッ
…それからよいつかはすまなかったな
気まま旅なんて言っちまってよ


ゴッ
思い出したぞ
まったく無礼な奴だ
これからは逃げたくなっても
全員逃さんからな
チッ しょーがねーから…
気まま旅にもう少し付き合ってやるよ